

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

● 支部学術大会報告	1
● 令和5年度認定医・専門医筆記試験	6
● 第8回補綴歯科臨床研鑽会「プロゾ'23」の報告	7
● 令和5年度専門医研修会が開催されました	8
● 受賞報告	9
● 51 <sup>st</sup> Indian Prosthodontic Society (IPS) Conference 参加レポート	10
● 補綴関連講座・分野新教授紹介	11

## 支部学術大会報告

### ● 東北・北海道支部学術大会

令和5年度東北・北海道支部学術大会は10月7、8日に北海道自治労会館（札幌市）を会場に3年ぶりに現地対面方式で開催され、124名の皆様にご参加いただきました。今回は一般口演4題、ポスター発表11題のほか、特別講演2題とシンポジウムを行いました。まず特別講演1では、北海道大学の吉田靖弘先生に「世界トップレベルの歯科材料・機器を臨床につなげる！— 若手研究者の自由な発想と努力がもたらす大型医療研究事業 —」というタイトルでご講演いただき、若手研究者への希望溢れるメッセージをご講演いただきました。特別講演2では、東京医科歯科大学名誉教授の高橋英和先生に「ISO規格と補綴治療」というタイトルでご講演いただきました。高橋先生は歯科用CAD/CAMシステムの国際議長として歯科材料・機器の国際規格の作成に尽力されたご経験か

ら、国際規格の重要性などをわかりやすく解説していただきました。シンポジウムとしては「社会実装を目指した歯科補綴研究」をテーマにして、北海道大学の山口泰彦先生に「ウェアラブル筋電計を用いた睡眠時歯科筋電図検査」、奥羽大学の山森徹雄先生には「医療技術の保険収載に対する（公社）日本補綴歯科学会の取り組み」についてご講演をいただきました。

久しぶりの通常開催に不安もありましたが、ご参加、ご後援、ご協力いただいた皆様のおかげで充実した支部学術大会となりました。改めて関係各位に厚く御礼申し上げます。  
(北医療大 疋田一洋)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_963.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_963.pdf)



特別講演講師 左：高橋英和先生 右：吉田靖弘先生



シンポジウムでの感謝状贈呈

### ● 関越支部学術大会

2023年11月5日(日)に関越支部学術大会・総会を日本歯科大学新潟生命歯学部講堂(新潟県新潟市)にて、COVID-19の収束傾向が見られたため、関係各位にご理解、ご協力を賜り4年ぶりの完全対面形式で開催いたしました。

午前中に一般口演9題が発表され活発な質疑応答が行われました。総会をはさみ午後からは特別講演が行われました。講師にはチームラボ株式会社 取締役の堺 大輔様をお招きして、「チームラボの取り組み」と題してデジタルアート作品、デジタルコンテンツやデジタルソリューション、現在取り組まれている学校運営などについてご講演をいただきました。また、学術大会終了後には「垂直歯根破折歯の救済と補綴的対応」のメインタイトルで生涯学習公開セミナーが開催され、魚島勝美先生(新潟大学)座長のもと、「垂直歯根破折歯の治療実績と今後の方向性」と題して長澤麻沙子先生(新潟大学)、「垂直歯根破折歯修復の実際と予後」と題して眞坂こづえ先生(眞坂歯科医院)にご登壇いただき、歯根破折歯修復に関する臨床研究と基礎研究、治療実績、破折歯根接着治療に用いる材料と臨床術式についてご講演をいただきました。

最後になりましたが、現地まで足を運びご参加いただきました皆様、本会開催にあたりご後援いただいた新潟県歯科医師会、群馬県歯科医師会、栃木県歯科医師会の皆様、ならびにご支援、ご協力いただきました関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。

(日歯大新潟 上田一彦)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_971.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_971.pdf)



特別講演 チームラボ株式会社 堺 大輔様



生涯学習公開セミナー質疑応答(左から眞坂先生、長澤先生、魚島先生)

### ● 東関東支部学術大会

2024年3月17日(日)ロイヤルパインズホテル浦和にて、明海大学歯学部機能保存回復学講座クラウンブリッジ補綴学分野が主管校となり、埼玉県歯科医師会の後援をいただき令和5年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東支部学術大会・総会を開催いたしました。一般口演6演題、専門医申請ケースプレゼンテーション1演題が発表されました。参加者は計173名で、その内学会会員102名、歯科医師会会員71名でした。特別講演として、日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座 河相安彦教授を講師にお迎えして『補綴の不易流行一補綴を志す皆さんに期待すること』というテーマで、河相先生の集大成ともいえる補綴歯科専門医40年間を通じて培った診療・研究・学会等に向き合う姿をご講演いただきました。また生涯学習公開セミナーでは明海大学歯学部口腔生物再生医工学講座歯周病学分野 林 丈一朗教授と東京支部脇 智典先生を講師としてお迎えし『前歯部の審美修復処置に必要なこと』も開催されました。講演後にはお二人にご登壇いただきソフトティッシュマネジメントや前歯部補綴治療の診断について活発な質疑応答がなされ非常に実りの多い大会となりました。

またCOVID-19の影響が緩和されてきたことから懇親会も3月16日(土)に開催され、多くの先生方の交流の場となりこちらは和やかな会となりました。

最後にご参加ご講演いただきました皆様に、この場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。

(大会長 藤澤政紀 準備委員長 村上小夏)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_1055.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_1055.pdf)



生涯学習公開セミナーでの感謝状贈呈の様子  
(大会長 藤澤政紀、講師 林 丈一朗先生、講師 脇 智典先生、座長 小見山 道先生、副支部長 岡本和彦先生)



懇親会の様子(閉会の辞 河相安彦先生)

### ●東京支部学術大会

令和5年度東京支部学術大会が萩原芳幸大会長（日本大）のもと、2023年12月3日（日）に日本大学歯学部本館で現地開催されました。

一般口演は20題で活発な質疑応答が行われ、その中から東京支部各大学選考委員の投票により4題の優秀研究発賞が選出されました。お昼には東京支部総会が開催され、平行して一般市民にも興味深いテーマである「睡眠時無呼吸症への歯科的対応」と題して、日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅰ講座の浦田健太郎先生による市民フォーラムも開催いたしました。

その後の特別講演では東京都開業の寺西邦彦先生より「インプラント時代におけるパーシャルデンチャーの意義を考える（インプラントとRPDの共存とは）」と題し、部分床義歯の基礎とインプラントの棲み分けについてのご講演をいただきました。

生涯学習公開セミナーは「顎顔面治療が達成する術後のQOL」をテーマに、日本大学歯学部口腔外科学第Ⅱ講座の生木俊輔先生には「口腔外科が顎顔面補綴へ及ぼす影響」、日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座の大山哲生先生には「QOL回復を目指した顎顔面治療の実際」と題したご講演をいただきました。日常臨

床ではなかなか遭遇しない顎顔面補綴治療について幅広い知識を習得する良い機会となりました。

今回の学術大会では247名の方々にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。また、新型コロナウイルスの影響で数年間中断していた懇親会を久しぶりに開催し、久しぶりに旧交を温め大学の垣根を越えて教育や研究に関する交流を深めることができたようです。

令和5年度東京支部学術大会に、ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。  
（日本大 秋田大輔）

プログラム・抄録集 PDF

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_1007.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_1007.pdf)



総会における飯沼支部長のご挨拶



特別講演を行う寺西邦彦先生

### ●西関東支部学術大会

2024年1月7日（日）に令和5年度（公社）日本補綴歯科学会西関東支部学術大会を神奈川県歯科医師会館において、メインテーマに「健康長寿をサポートする補綴臨床」として鶴見大学鈴木恭典准教授を大会長のもと開催いたしました。学術大会では口演12演題、ポスター5演題の発表がされ、数多くの先生にご参加いただきました。学術大会における、シンポジウム講演ではテーマを「インプラントのトラブルシューティング」として今村栄作先生（横浜総合病院）、小久保裕司先生（鶴見大）に外科、補綴に関するトラブルへの対応に関しての講演をしていただきました。特別講演として守屋義雄先生（神奈川県歯科医師会会長）より「補綴学会・補綴治療の未来への展望—神奈川県歯科医師会からの提言—」として歯科医師会からの補綴学会会員への貴重な提言をお示しになりました。また、ランチョンセミナーとして佐々木圭太先生（鶴見大）より口腔内スキャナーの臨床応用に関する講演がなされ、その後に別会場でハンズオンセミナーも開催しました。学術大会終了後に併催した生涯学習公開セミナーでは、『「栄養摂取」と「美味しい」を守る補綴歯科』をテーマとして、鈴木真由美先生（東

女医大）、菅 武雄先生（鶴見大）に医師、歯科医師それぞれの立場からみた咀嚼と嚥下についての講演をしていただきました。冬晴れの清々しい天候の中、補綴歯科の研鑽の場として対面開催により参加者同士の交流と討議で盛り上がった一日となりました。

（鶴見大 栗原大介）

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_1041.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_1041.pdf)



シンポジウム講演者の表彰



生涯学習公開セミナー会場からの質問

### ●東海支部学術大会

令和5年度東海支部学術大会は2023年11月25日、26日に愛知学院大学110周年記念講堂にて対面にて開催されました。2019年度に新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い多くの学会が対面式を断念していましたが、久しぶりに対面式で開催することができました。特別講演として愛知学院に赴任されました冠橋義歯・口腔インプラント学講座近藤尚知教授による「補綴治療・インプラント治療におけるデジタルワークフロー 口腔内スキャナーをどのように活用するのか」のテーマでご講演いただきました。生涯学習セミナーは、メインテーマを「おいしく食べる」を考えるとし、愛知学院大学顎顔面外科学講座の渡邊 哲先生より「美味しく食べるために必要な知識－摂食嚥下障害の基礎と口腔内装置－」、また開業医の立場から結デンタル院長宮本佳宏先生より「最期までおいしく食べるために歯科ができること－訪問診療の現場から－」をご講演いただきました。また一般口演10題、ポスター発表2題とさまざまな演題があり活発なディスカッションが行われました。

また、懇親会も開くことができました。個人的なことですが、私は2021年に愛知学院大学歯学部へ赴任

しましたので、東海支部学術大会での支部会員の先生方との学術的交流は初めてになり大変意義深い懇親会となりました。最後になりますが、学会のため御協力いただきました先生方、協賛いただきました企業様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

(愛院大 木本 統)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_1003.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_1003.pdf)



近藤尚知先生の特別講演を終えて感謝状贈呈



懇親会で乾杯の挨拶中の武部 純先生

### ●関西支部学術大会

令和5年度関西支部学術大会が、2024年1月27日(土)、28日(日)に大阪歯科大学創立100周年記念館にて現地対面形式で「咬合と咀嚼がつくる健康長寿」をメインテーマに開催されました。

27日には、新制度での専門医ケースプレゼンテーション3演題、一般口演3演題、特別講演として佐藤裕二先生(昭和大学名誉教授)に「美しい撤去～安心・安全で効率的な理論と実践～」と題したご講演をしていただきました。日常臨床ですぐに役立つ知識について、有意義な学びの多いご講演でした。1日目終了後には、コロナ禍以来4年ぶりとなる懇親会が開かれ70名の参加がありました。

28日には、一般口演7演題、教育講演として小野高裕先生(大阪歯科大学教授)に「義歯治療のアウトカムを測る－機能と患者満足度－」と題したご講演をしていただきました。最近の研究成果をもとに、治療アウトカムを多軸的評価によって測る重要性について理解を深めたご講演でした。

また、併催で学術大会終了後に、『「栄養摂取」と「美味しい」を守る補綴歯科』をテーマに生涯学習公開セミナーが行われ、長谷川陽子先生(新潟大学大学院医

歯学総合研究科包括歯科補綴学分野)に「咀嚼と栄養の科学：歯科の視点から」と題したご講演をしていただきました。高齢者が必要な栄養を摂取するための歯科医療に役立つご講演でした。

今回の学術大会では215名の方々にご参加いただき、盛会裏に終えることができました。ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(大歯大 高橋一也)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_1042.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_1042.pdf)



学会会場風景



特別講演での佐藤裕二先生



生涯学習公開セミナーでの長谷川陽子先生

### ●中国・四国支部学術大会

令和5年度（公社）日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会を、9月2日（土）、3（日）に高知市の総合あんしんセンターにて開催いたしました。一般口演は9題を行い、久しぶりの対面型の口演で時間的にも余裕があったため、活発な質疑応答を行うことができました。今回の学術大会では「歯科の未来」をメインテーマに、デジタル化と超高齢化社会への対応について講演を企画しました。シンポジウムでは「今後の補綴歯科を考える」と題して、DX推進への対応：「デジタルデンチャーシステムの現状と今後について」と「歯科デジタルツインの活用」について講演いただきました。超高齢化社会への対応として市民フォーラムでは、「健康長寿は口の健康から—あなたの咀嚼、嚥下は大丈夫？—」のタイトルで、オーラルフレイルや認知症を予防し健康長寿を達成するために、よくかめうまく飲み込むことの重要性についてオンデマンド配信を行いました。ランチョンセミナーでは「新開発のCAD/CAM 歯冠補綴用材料『KZR-CAD ファイバブロックフレーム』」の講演をいただき、また、補綴歯科専門医制度について報告いただきました。学会閉会後の生涯学習公開セミナーでは「有病者・高齢者の補

綴歯科について」のテーマで、「がん口腔支持療法における補綴歯科の重要性」と「ライフステージを考慮した補綴歯科治療、口腔機能維持への対応について」の講演をいただきました。

3年ぶりに参集型の学術大会を開催でき、講演に対する多くの質疑応答もできて盛会のうち無事終了することができ、開催にご協力、またご参加いただいた方々に心より御礼申し上げます。

（令和5年度中国・四国支部学術大会  
大会長 池田隆志）

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_964.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_964.pdf)



白熱した一般口演のディスカッション風景



多くの聴講者が集まったシンポジウム

### ●九州支部学術大会

2023年10月8日（日）に、福岡歯科大学50年記念講堂で、令和5年度九州支部学術大会が開催されました。前日は久しぶりに恒例のソフトボール大会と意見交換会が催され、大いに会員間の親交を深めることができました。大会当日は九州5大学の有床義歯学分野の教室からの招待講演、16題のポスター発表および1題の専門医申請ケースプレゼンテーションが行われました。いずれの演題も活発なディスカッションがなされました。また、併催した市民フォーラムでは『入れ歯でイキイキ「健口」生活』というタイトルで都築 尊教授（福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野）にお話しいただきました。

学会終了後には、「より良い治療計画の立案のために」というテーマで生涯学習公開セミナーが併催され、大分県開業の土屋嘉都彦先生には「患者それぞれに合った治療計画立案のための資料採得ならびに診断用ワックスアップ」と題して、また九州支部の松永興昌先生には「患者満足度を高めるための知識と技術を考察する」と題して、ご講演いただきました。お二人の先生には臨床に直結する重要な内容に富んだお話をし

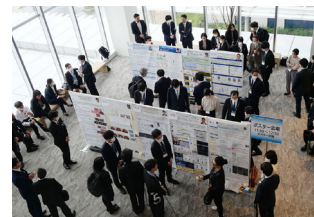
ナーとなりました。

最後に、多くの先生方にご参加いただき、大会を成功裏に終えることができましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本年度は熊本市で開催いたします。どうぞよろしく願い申し上げます。

（福岡大 松浦尚志）

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_974.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_974.pdf)



ポスター発表風景



生涯学習公開セミナーで質問に答える土屋嘉都彦先生（左）と松永興昌先生（右）

## 令和 5 年度認定医・専門医筆記試験

令和 5 年度の認定医・専門医試験は昨年度に引き続き対面で実施することができました。2023 年 5 月 19 日（金）14:50～15:40 まで第 132 回学術大会の会場であるパシフィコ横浜 会議センター 3 階 会議室 303+304 に 179 名の受験者が集合しました。ここ数年の受験者数の推移は 9 支部分散で行った令和 2 年度が 280 名、令和 3 年度が 157 名、学術大会会場にて対面で実施した令和 4 年度が 136 名でした。合格率は 70.4%、平均正答率は 64.6±9.7%と、昨年一昨年と概ね同様な結果であり、妥当な試験内容であったと考えられます。

ここで試験の成り立ちについてご説明いたします。試験を実施するにあたり、毎年 12 月末を締切として、試験問題を各支部選出の代議員の先生方に提出いただきます。試験問題が集まると、制度委員会で問題のブラッシュアップをまず第 1 次ブラッシュアップ担当委員が行い、ブループリントに従い各領域の採択候補問題と予備問題を抽出します。それを受けて 1 次ブラッシュアップ担当とは別の幹事委員が、2 次ブラッ

ッシュアップを行い、最終採択問題の案を抽出します。そして更に、制度委員会で 3 次ブラッシュアップを行い、最終問題を確定します。このように、多数のブラッシュアップを行うことによって適切な評価を心がけています。

令和 6 年度は 2024 年 7 月 5 日（金）14:50～15:40 のスケジュールで第 133 回学術大会時に幕張メッセ国際会議場 201 号室にて実施されます。制度委員会ではすでに令和 6 年度の試験に向け新たな問題のブラッシュアップを実施しているところです。引き続き補綴歯科学会の認定医・専門医制度の充実に会員の皆さまのご理解とお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

令和 6 年度試験より出題基準が改定されます。必ずウェブページ ([https://www.hotetsu.com/c\\_2007.html](https://www.hotetsu.com/c_2007.html)) より、歯科補綴学教育基準 改訂 2021 をご確認ください。

(修練医・認定医・専門医制度委員会委員長  
鮎川保則)

## 第8回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'23」の報告

—若手歯科医師に伝えたい知識, 技術, 感性—

2023年11月5日(日), 愛知学院大学歯学部・末盛キャンパス・臨床教育研究棟(愛知県名古屋市中区)におきまして公益社団法人日本補綴歯科学会・第8回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'23」を参集型で開催しました。

昨今の歯科補綴診療の現場は, 補綴歯科学の理論のみならず, 技工, 矯正, 外科など幅広い領域にわたる知識と技術が求められ, 同時に新しい製品や技術が次々と創出されています。それに伴い, 歯科医師, 歯科技工士, 関連企業など多くの職種の方々も補綴歯科診療に参画されるようになりました。

プロソ'23は, メインテーマを「若手歯科医師に伝えたい知識, 技術, 感性」, サブテーマとして「最新のデジタルデバイスの活用と知っておくべき不変の補綴診断ならびに治療技術」を掲げ, 研究発表の場としてではなく, 臨床技術に関わる教育講演を中軸としました。さらに, ランチョンセミナーや企業展示等も企画し, 新しい技術や新規材料を実際に手に取ってもらえる場も提供しました。そして, 若手だけを対象とするのではなく, 専門医, 指導医レベルの会員にとっても魅力的な内容とするために, 今回の臨床研鑽会「プロソ'23」は, 日本臨床歯科学会および日本顎咬合学会との共催としました。

講演は当代の御高名な臨床家を名古屋にお招きし, 二つのシンポジウムと二つのスペシャル・セッション

を設定しました。シンポジウム1では「補綴主導型インプラント治療のDX—デジタルの眼で診断技術を可視化する」, スペシャル・セッション1では「審美と機能の融合-Digital Deviceをいかに活用するか」, シンポジウム2では「補綴医が修得すべきソフトティッシュマネジメント」, スペシャル・セッション2では「補綴装置の長期安定性獲得のための要件」についてご講演いただき, 各シンポジストの先生方とご参加いただいた先生方による活発な討論が行われ, どれも聞き逃すことができないすばらしいものでした。

なお, 本研鑽会の参加者は本会員143名, 非会員20名, 臨床歯科学会会員13名, 日本学咬合学会会員11名の計187名のほか, 研修医, 学生らの聴講を合わせて250余名を数え, さらに12社による企業展示や2社によるランチョンセミナーの協賛をいただいた関連企業様のご参加をもちまして, たいへんな盛会となりました。ご参加の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

末筆となりますが, 会員をはじめ関係各位の益々のご繁栄を心より祈念申し上げます。

大会長 近藤尚知(愛知学院大学歯学部 冠橋義歯・口腔インプラント学講座)

実行委員長 阿部俊之(愛知学院大学歯学部 冠橋義歯・口腔インプラント学講座)



スペシャル・セッション1『審美と機能の融合-Digital Deviceをいかに活用するか』



左から窪木拓男理事長, 演者の千葉豊和先生(日本臨床歯科学会), 山崎長郎先生(日本臨床歯科学会理事長), 近藤尚知大会長

## 令和5年度専門医研修会が開催されました

令和5年度の専門医研修会は昨年度に引き続き修練医・認定医・専門医制度委員会（以下、制度委員会）の所掌の下、研修会のテーマに沿った講師をご推薦いただきオンラインで5回実施されました（講師座長の敬称略）。

### 第1回

2023年4月9日「新制度による歯科補綴専門医認定について」

講師 河相安彦（修練医・認定医・専門医制度委員会委員長・当時）、木本克彦（修練医・認定医・専門医認定委員会委員長・当時）、鮎川保則（教育問題検討委員会委員長・当時）

座長 窪木拓男（副理事長・当時）

第1回は通常の専門医研修会と異なり、日本歯科専門医機構認定歯科補綴専門医制度について関係三委員会委員長より解説していただきました。

### 第2回

2023年6月18日「部分床義歯の設計を再考する」

講師 鈴木恭典（西関東支部）、藤関雅嗣（東京支部）

座長 横山敦郎（北海道・東北支部）、若林則幸（制度委員会）

### 第3回

2023年9月10日「顎機能障害の補綴治療（顎関節症治療の基本）」

講師 島田明子（九州支部・当時）、荒井良明（関越支部）

座長 羽毛田 匡（東京支部）、鮎川保則（制度委員会）

### 第4回

2023年11月26日「歯科材料と技術（ファイバーポストによる支台築造と予後）」

講師 坪田有史（東京支部）、吉田圭一（九州支部）

座長 加来 賢（関越支部）、秋葉奈美（制度委員会）

### 第5回

2024年1月21日「全部床義歯の印象法と咬合調整を再考する」

講師 兒玉直紀（中国・四国支部）、松田謙一（関西支部）

座長 佐藤洋平（西関東支部）、池田敏和（制度委員会）

第2回から第5回は通常の専門医研修会として、部分床義歯の設計、顎関節症治療、全部床義歯の印象と咬合調整をトピックに、それぞれの分野の最先端の先生方に講義していただきました。いずれの研修会も多数のご聴講をいただきました。オンラインの研修会では挙手してマイクの前に立たないでよいための、質問も多数いただきました。オンライン研修会は演者聴講者いずれも参加しやすいメリットがありますので、2024年度もこのフォーマットで開催予定です。また、来年度からは広告可能専門医の取得・更新要件である共通研修も専門医研修会でオンライン実施する予定です。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

（修練医・認定医・専門医制度委員会委員長  
鮎川保則）

令和5年度 公益社団法人日本補綴歯科学会  
第5回補綴歯科専門医研修会



令和5年度 公益社団法人日本補綴歯科学会  
第5回補綴歯科専門医研修会



第5回専門医研修会質疑応答の様子

令和5年度 公益社団法人日本補綴歯科学会  
第5回補綴歯科専門医研修会



令和5年度 公益社団法人日本補綴歯科学会  
第5回補綴歯科専門医研修会





## 受賞報告

### ○松村英雄先生、大川周治先生が令和5年度日本歯科医学会会長賞を受賞

日本歯科医学会の最高顕彰である令和5年度日本歯科医学会会長賞に本会推薦により松村英雄先生（日本大）が研究部門で、日本磁気歯科学会推薦により大川周治先生（明海大）が教育部門で選出され、第112回評議員会（2024年2月20日）において授賞式が挙行されました。誠にありがとうございます。（広報委員会）

#### <受賞概要>

松村英雄先生

氏は、昭和56年に日本大学歯学部歯学科を卒業後、東北大学工学部化学工学科、さらに東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程に進学されました。その後、長崎大学助教授に任官され、平成15年4月に日本大学教授に就任されました。

氏はその間、高度な学識、先進的な研究能力を活かし、歯科補綴学および歯科理工学を中心とした研究に精力的に取り組まれました。特に、接着機能性モノマーの合成、複合歯科材料の調製、無機粉体の表面改質等の研究に従事され、世界をリードする偉大な研究業績を残され、多大な功績を挙げられました。

材料の研究以外に、補綴装置の臨床成績評価、歯科医療機器の開発等に従事され、複数の材料、機器が製品化され、現在も市販されております。

また、氏は、強いリーダーシップを発揮し、歯学部生教育、大学院生の研究指導、補綴歯科臨床に従事され、数多くの優れた後進の指導に励んでこられました。

本学会においても、常任理事を1期、副会長を5期、多数の委員会委員等を歴任され、会務の健全な運営に尽力されました。さらに学術大会では第21回から第24回までの4大会で、準備委員長、事務局長、顧問を歴任し、重要な役割りを果たされました。

#### <受賞概要>

大川周治先生

氏は、昭和55年に広島大学歯学部を卒業後、長きに亘り、歯科医学における教育・研究および学会活動に多大な貢献をされました。

研究においては、「咀嚼機能に関する客観的評価法の開発・応用」、「垂直的顎間距離決定の基準下顎位に関する研究」および「味覚機能のスクリーニング検査の構築と応用」等を主たるテーマとして、学術論文総数247編等、多くの優れた業績を挙げられました。

氏は、医局員（大学院生）に対して、「実験計画の立案は、治療計画の立案と同じである」すなわち、研究テーマ着想から論文作成までの流れを修得することは、問題解決型臨床技能修得の基礎になる、という“研究における基本理念”を臨床技能向上のための教育に活用されました。また、新入医局員の場合は、新人の研修プログラムである「トレーニングコース」の項目に、印象体の消毒法、[n]持続発音を応用した咬合採得法、客観的咀嚼機能検査法、味覚機能検査法等の講義、実習が組み込まれており、大学院生と同様に、研究結果（科学的根拠）を活かす形で補綴歯科臨床の教育指導を行ってこられました。

本学会においても、理事、評議員、各種委員会委員等を歴任され、さらに来年9月開催の第25回学術大会では、準備委員長を務めるなど、会務の健全な運営に尽力されました。



住友雅人日本歯科医学会会長（左）より受賞を受ける松村先生



住友雅人日本歯科医学会会長（左）より受賞を受ける大川先生



授賞式の集合写真

## 51<sup>st</sup> Indian Prosthodontic Society (IPS) Conference 参加レポート

2023年12月8日～10日の日程で、インドの西部にある都市であるゴアにて、51<sup>st</sup> Indian Prosthodontic Society (IPS) Conferenceが開催されました。IPSから基調講演の要請を受け、私、渉外委員会の猪越正直と、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔デジタルプロセス学分野の土田優美先生の2名で参加させていただきました。

ゴアはインド西部に位置し、冬でも気温が30℃前後あるような海沿いのリゾート地でした。アラビア海に面した海岸があり、日没時には夕焼けが美しい所でした。私は今回が人生で初めてのインド訪問でしたが、予想していた街の喧騒はほとんどなく、とても落ち着いた雰囲気の街でした。

51<sup>st</sup> IPS Conferenceのテーマは Blending- Skill, Precision & Perfection で、主に補綴歯科臨床に関するシンポジウムや講演が多く企画されていました。インドでは、特にデジタルデンティストリーが注目されているようで、固定性補綴装置に関する講演はもちろんのこと、顎顔面補綴処置へのデジタルデンティストリーの応用といった講演も設定されていました。口腔

内スキャナーを積極的に臨床に取り入れているケースが多く報告されていました。また、全部床義歯補綴に関するパネルディスカッションも企画されており、大変興味深く拝聴しました。

私は12月9日の午前中に、Contemporary dental ceramics-Recent topics based on material research という演題で、ジルコニアに関する研究の紹介と、臨床での注意事項について講演させていただきました。土田先生は、12月10日の午前中に、Application Software for Clinical and Educational Support in Dentistry という演題で講演されました。IPSの皆様はとても熱心で、講演後もフロアで何名かから質問を受け、大変有意義なディスカッションをさせていただきました。これまで渉外委員長として、IPSの執行部の何名かの先生とメールでやり取りをしておりましたが、現地でIPSの皆様に対面でお目にかかることができ、これからの日本補綴歯科学会とIPSの交流が活発になることを確信いたしました。この度は大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(渉外委員長 猪越正直)



座長の先生方と猪越委員長



講演中の土田先生



IPS執行部の先生達と一緒に、左から土田先生、猪越委員長、Jangala Hari先生、Padmaja Pithani先生。

## 補綴関連講座・分野新教授紹介

### 大阪歯科大学



**島田明子**  
医療保健学部 口腔保健学科  
2023年4月1日就任

2023年4月1日付けで、大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科教授を拝命いたしました島田明子でございます。私は、2003年に長崎大学歯学部卒業後、同大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野にて、藤井弘之前教授、村田比呂司教授のご指導の下、咬合力制御に関する研究に従事し、博士号を取得いたしました。2010年から7年間オーストラリア大学およびカロリンスカ研究所にて、咀嚼筋痛障害に関する研究および学部生教育に従事し、2015年に二つ目の博士号を取得いたしました。2017年から大阪歯科大学に4年間在籍し、高齢者歯科学講座の高橋一也教授のご指導の下、高齢者歯科学についての教育・研究・診療の研鑽を積み重ねていただきました。その後、長崎大学生命医科学域歯学系歯科補綴学分野准教授として過ごした2年間では、日本補綴歯科学会渉外委員会（澤瀬 隆委員長）の委員としてKAPでの講演やPCSPへの参加など貴重な機会を通し、海外への情報発信の重要性を学ばせていただき、現在は教育問題検討委員会（築山能大委員長）にて副委員長を仰せつかっております。

本学部は学士およびダブルライセンス（歯科衛生士または歯科技工士＋社会福祉士）の取得が目指せる4年制養成機関で、さらに本学大学院医療保健学研究科は、私立大学で唯一修士および博士（後期）の学位取得ができる研究機関でございます。18歳人口が減少し、超高齢社会が続く日本において、多職種連携医療の中で多角的な視野を持ち、アカデミックな思考で補綴治療に貢献できる歯科衛生士・歯科技工士の養成および研究者の育成に微力ながら尽力してまいります。浅学菲才の身ではございますが、大阪歯科大学ならびに日本補綴歯科学会の更なる発展のため、一層精進いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 新潟大学



**堀 一浩**  
大学院医歯学総合研究科  
包括歯科補綴学分野  
2023年12月1日就任

このたび、2023年12月1日付で新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野教授を拝命いたしました、堀 一浩と申します。このたび、日本補綴歯科学会会員の先生方にご挨拶をさせていただく機会をいただきました。

私は、1998年に大阪大学を卒業後、同大学歯科補綴学第二講座に入局し、野首孝祠名誉教授、前田芳信名誉教授に師事し、有床義歯治療を中心に臨床研究教育を行ってまいりました。2009年には新潟大学へと赴任し、井上 誠教授のもと摂食嚥下リハビリテーション学分野に携わり、2015年に小野高裕名誉教授が当分野教授に着任されたのを機に、再度補綴学分野へと移籍して現在に至っております。歯科補綴学だけでなく、摂食嚥下リハを専門とする経験を得たことは、私にとって包括的な補綴治療のための幅広い視点を与えていただいたものと考えております。また、研究においても口腔機能評価を中心としてさまざまな手法を提案してまいりました。

現在当分野には約25名が教室員として在籍し、日々臨床教育研究に頑張ってくれています。50年を超える当分野の歴史を引き継ぎ、新たな技術を分野の垣根なく融合させながら、歯科補綴を通じて国民の皆様の口腔の健康に寄与したいと考えます。日本補綴歯科学会の先生方にはこれまでさまざまな面でご指導いただいております。引き続きこれからも当分野へのご指導、ご支援を賜ればと思います。今後ともよろしく願いいたします。

## 東北大学



## 依田信裕

大学院歯学研究科リハビリテーション歯学講座口腔システム補綴学分野  
2024年3月1日

このたび、東北大学大学院歯学研究科リハビリテーション歯学講座口腔システム補綴学分野の教授を拝命しました依田信裕と申します。今回、本紙面をお借りして、日本補綴歯科学会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は2003年に東北大学歯学部を卒業後、東北大学大学院歯学研究科へ進学し、佐々木啓一教授のご指導のもと学位を取得しました。その後、同分野に在籍し、教育・研究・臨床に研鑽を積んでまいりました。研究

では、「生体情報の実測に基づく顎口腔系のバイオメカニクス、メカノバイオロジーの解明」をテーマに、異分野国際共同研究を含め、さまざまなプロジェクトに従事させていただきました。臨床では、歯科インプラントセンターの専属歯科医師として、小山重人先生（東北大学病院歯科インプラントセンター長）のご指導のもと、病院内の歯科インプラント治療、および学生教育、卒後教育を担当してまいりました。

日本補綴歯科学会では、これまでに国際渉外委員会委員、医療問題検討委員会委員、特命委員会委員を経験させていただいております。これまでの学会への貢献は微々たるものでありますので、今後はより大きな貢献ができるよう誠心誠意努力する所存です。

浅学非才の身ではございますが、東北大学大学院歯学研究科および日本補綴歯科学会の益々の発展に少しでも貢献できるよう、一層精進いたします。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 【投稿募集】

*Letter for Members* では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局 ([jpr-edit01@hotetsu.org](mailto:jpr-edit01@hotetsu.org)) まで、メールにてお寄せください。